

Istanbul Weekly vol.4-no.9

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2015年3月6日（金）

— 今週のポイント —

- 政治**：オジャラン PKK 首領、武装解除を呼びかけ：政界の動き。
【参考論調】 PKK の武装解除で得をするのはどの政党か。
- 軍事**：トルコ、ISIL 対策で軍事支援物資をイラクへ空輸。
 トルコ軍用機墜落事故（続報）。
- 経済**：2月のインフレ率上昇、記録的なリラ安。
 DEIK：合同経済委員会委員長の任期に制限。
- 治安**：オジャラン PKK 首領、武装解除のメッセージ発出。
 サカルヤ県で ISIL に対する捜索、10名拘束。
- 社会**：地下宮殿が最も人気。
 ミニバスに監視カメラを搭載。

政治

【クルド和平プロセス】

●オジャラン PKK 首領、武装解除を呼びかけ：政界の動き
 2月28日、オジャラン PKK 首領が武装解除に向けて春に臨時大会を開催するよう呼びかけたことを受けて、エルドアン大統領は、これを評価する一方で、「重要なのは実施されるかどうかだ」と強調した。また、HDP 側が、今後の和平プロセスの基礎となる「10の項目」（下記「参考」参照）を掲げたことについて、ダーヴトオール首相が「これらは武装解除の前提条件ではない」と述べてデミルタシュ HDP 党首らを牽制するなど、早くも政府と HDP 側の見解の相違が露呈している。更に、HDP 側が、現在国会で審議中の国内治安法案の撤回を武装解除と絡めた形で求める構えを見せているのに対し、AKP 側は「国会審議での修正提案が行われれば、提案は受け入れる」と述べるに留めるなど、先行きは不透明。（3月3日付 H 紙 22 面）

（参考）HDP が発表した 10 の項目（ポイント）

- (1) 民主主義的な政治体制の確立に向けた議論
- (2) 政府・地方レベルでの民主主義的な解決手段の承認
- (3) 国民国家概念の修正とクルドの権利・自由の保障
- (4) 民主主義的な組織化に向けた対応
- (5) 経済・社会面における対応
- (6) 民主主義と国内治安維持の関係性の再検討（注：国会で審議中の国内治安法を念頭に置いたものと捉えられている）
- (7) 女性・文化・環境に関する法的な整備及び保証
- (8) アイデンティティの定義及び多元的・平等な制度の構築
- (9) 憲法上での多面的な民主主義体制の実現
- (10) 以上の項目を含む新たな憲法の制定
 （3月2日付 M 紙インターネット版等）

【内政】

●汚職に関する世論調査

トルコ経済社会研究財団（TESAV）が全国 1206 人に対して汚職に関する世論調査を実施した結果、82%が「トルコには汚職が存在する」と回答した他、「賄賂を認め得るか」との質問に対し、68%が「認められない」とする一方、32%が「認め得る」と回答した。また、「これまで誰から賄賂を求められたか」との質問に対し、警察官 13%、自治体の公務員 12%、税務署職員 11%、市議会議員 11%、税関職員 10%の結果となった。（3月4日付 C 紙 9 面）

●エルドアン大統領の全ての食事が「毒見」へ

エルドアン大統領の医療団長も務めるジェヴデット・エルドオール AKP 議員によれば、5人から成る大統領医療チームは、大統領の口に入る全ての食物・飲料について、放射能、化学物質、細菌等の検査を開始する。今後は、各国の先進的な例も取り入れながら、大統領府内に検査室を新設して 24 時間体制でチェックが行われる予定。これらの取組の目的には、食べ物を介した大統領の暗殺を未然に防ぐことも含まれている。（3月3日付 H 紙 20 面）

【外交】

●エルドアン大統領、サウジアラビアを訪問

1日から3日にかけて、エルドアン大統領はサウジアラビアを訪問した。メッカ訪問の後、リヤドでサルマン国王との間で行われた会談では、特にシリア情勢について、両国が反アサド派に対する支援を増強していく必要性で一致した。なお、今般の訪問が、トルコが批判を強めるシシ・エジプト大統領の同国訪問から2日後に行われたことについて、サルマン国王がトルコ・エジプト間の関係正常化の仲介役を担ったのではないかとの見方もある。

(3月3日付M紙19面)

●トルクメニスタン大統領のトルコ訪問

4日、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領がトルコを訪問し、イスタンブールでエルドアン大統領によって歓迎式典が催されたが、同大統領の母親の急病のために急遽帰国、首脳会談は中止となった。

(3月3日付M紙20面)

●ダーヴトオール首相、ポルトガルを訪問

3日、ダーヴトオール首相はポルトガルを訪問し、コエリョ首相と会談した。コエリョ首相がトルコのEU加盟を支持したのに対し、ダーヴトオール首相は、「EU加盟に関するトルコの意思は確固としており、今後も改革を継続する。トルコはEUの中で重要な役割を果たす。決して諦めない。」と述べた。ポルトガル訪問を終えたダーヴトオール首相は、次の外遊先の米国へ向かった。(3月4日付S紙23面)

【参考論調】

●PKKの武装解除宣言で得をするのは誰か(有識者の見方)

(1) ドーウ・エルギル教授

AKPにせよ、HDPにせよ、自らの選挙に得になるとの確信があったからこそ、本件にこれだけ意欲的に取り組んできた。しかし、トルコ最大の問題を選挙目当ての党利党略で捉えるのではなく、真の解決に向けて全ての当事者が誠実に向き合うことが必要だ。

(2) ハーカン・バイラクチュ SONAR 調査会社社長

現時点で、AKPの得票に対する影響を測るのは難しいが、少なくとも、MHPとHDPは利益を得るだろう。なぜなら、和平プロセスの進展を懸念している相当数の有権者の票がMHPに流れるからだ。

(2) レベント・コルクット AKIL 人権団体メンバー

HDPが来る総選挙で足切り条項(得票率10%)を超えるには、西部からの票の上積みが必要。今回の武装解除宣言は、HDPの票を直接的に増やすものではないが、少なくとも票固めの上でポジティブな要因にはなる。HDP側にとっては今後、国内治安を揺るがすような事件を発生させないことが重要になる。(3月3日付HT紙21面)

軍事

【シリア関係】

●ユルマズ国防大臣：モースルでのISIL掃討作戦に参加する可能性あり

ユルマズ国防大臣は、「トルコはモースルでのISIL掃討作戦を引き続き支援する。」と述べた。政府は今後、ISIL掃討のためのスンニ派兵士に対して訓練を行う予定であり、そのために国防大臣がイラクを訪問予定。3月2日、イラク軍兵士とイラク文民治安部隊合計3万人が北イラクのティクリットに向かった。



(3月3日付HD紙1面)

●トルコ、ISIL対策で軍事支援物資をイラクへ空輸

3月3日、トルコ軍C130輸送機2機がバクダッドへ軍事支援物資を空輸した。今回空輸された軍事支援物資は、迷彩帽、防弾チョッキ、ヘルメット、寝袋、毛布500セットとテント50個であった。ISILに対するモースル掃討作戦に協力姿勢を示すトルコ政府が、有志連合への協力を具体的に実施した形となった。



(3月4日付C紙8面等)

【一般】

●トルコ軍用機墜落事故(続報)

2月24日墜落したトルコ軍機の事故原因について、関係筋によると、2機の衝突については、高度の異常低下により墜落したもので、その原因については①高度計の異常、②パイロットの過失、③雲を避けるために高度を下げ過ぎたという3つの原因が予想されている。同機は、2013年に様々な部品を交換しており、問題はなかったとされている。(2月27日付C紙10面)

●バルヨズ事件の発端記者拘束

(1) 軍が政府転覆を企図しているとするバルヨズ事件の発端となったタラフ紙記事を執筆したメフメット・バランス記者が、3月1日、政府の秘密を暴露した等の容疑によりイスタンブール県警テロ課に拘束された。同記者が証拠として提出したHDDは偽造、サインも機械による模造と判定されていた。(3月2日付C紙7面)

(2) 3月1日に10時間に及ぶ自宅捜索を受け、身柄を拘束されていたバランス記者は、3月2日に「犯罪組織設立、国内外における国益を損失させる資料作成と廃棄」の容疑で逮捕された。(3月3日付HD紙1面)

●シリア避難民の数約185万人

AFADの発表によると、トルコへ避難しているシリア人は合計185万8000名であり、登録されていない者を含めると約200万人を越えると思われる。シリア避難民キャンプは10県で計24カ所あり、シリア避難民の数は、南東部11県のトルコ人居住者数を越えている。(3月2日付C紙8面)

●ISILに誘拐された兵士が軍事検察官の質問を受ける

1月1日、キリス県で密輸取締りオペレーション従事中にISILによって誘拐され、1月5日にMITにより救出されたトルコ軍兵士オズギュル・オルス氏が、2月27日、軍事検察官の誘拐時の状況に関し質問を受けた。オルス氏は密輸取締りオペレーション中にシリア領内に入り、ISILに誘拐されたものと見られている。(3月3日付HD紙3面)

経済

●政治家の圧力の下、金利、為替で対立

トルコにおいて金利及び為替について政府と中央銀行の

間の対立はあるも、過剰な圧力は経済を減速させる。24日、中央銀行は、3つの主要金利を引き下げたが、エルドアン大統領は、6月7日の総選挙を睨み、経済を押し上げたいとの考えから、低金利による国内消費の活発化を望み、引き下げ後の金利についても依然として批判。しかし、これにより生じるダメージについては計算していない。ゼイベック経済大臣も1週間物レボ金利は7%以下、翌日物借入金利も10%の水準を求めて中央銀行を批判。一方、ババジャン副首相、シムシェッキ財務大臣、アルンチ副首相は中央銀行を擁護した。

金利政策のいかなる決定も即座に為替に影響し、特に、海外投資家が金利引下げ同様、政治的リスク、国際情勢により判断する時には為替が変動する。2014年11月から2015年2月までに間に10%近くリラが下落したが、エルドアン大統領及び大統領に近い政治家が中央銀行に圧力をかけた結果である。(3月2日付HD紙10面)

●中央銀行への圧力を支持しない

Metropolli調査会社が2月17日から22日まで、2694人を対象に行った調査によると、68%が中央銀行は実体経済に基づいて政策決定を行うべきであると回答する一方、17%がエルドアン大統領の意思に基づいて政策決定を行うべきと回答した。AKP支持者でさえ52%が経済指標に基づいて政策決定を行う必要があると回答。また、48%が対ドル・リラ相場下落は、エルドアン大統領が中央銀行への圧力に起因すると回答した。(3月2日付HD紙10面)

●トルコがPKKの本拠地近くで石油調査へ

2日、ユルドゥズ天然資源・エネルギー大臣は、イラク中央政府との合意に沿ってPKKの本拠地として知られる北イラク・カンディルの近郊で石油探査を開始する考えを示した。同大臣は、継続中のクルド和平プロセスがこのような取組の道を切り開くとしている。(3月3日付HD紙11面)

●DEIK：合同経済委員会委員長の任期に制限

経済省によるDEIKの制度変更により、合同経済委員会の委員長の任期が3期までとなる(1期2年)。新規規則は過去に遡及して3期までに制限される。本年11月開催予定の総会での選挙により、複数の著名なビジネスマンが現在のポストを去ることとなる見通し。また、経済省は、委員会の委員長らを解任する権限を有することとなる。(当館注：日トルコ合同経済委員会のトルコ側委員長であるペカルン氏は現在2期目。)(3月3日付D紙6面)

●サバンジュ・グループ、4千人を新規雇用

2014年に2千人を新規雇用したサバンジュ・グループは、2015年、エネルギー分野を中心に35億リラの投資を行い、4千人を新規雇用する見通し。現在、6万人のグループの雇用者数は6万4千人となる。(3月4日付M紙11面)

●インフレ率上昇、記録的なリラ安

(1)統計庁が発表した2月の月間インフレ率は0.71%上昇し、年間インフレ率では7.55%となった。また、エネルギー価格の上昇、食品・ノンアルコール飲料部門の物価上昇(月間インフレ率2.59%)や交通部門の物価上昇(月間インフレ率1.77%)等に牽引され、リラ安が進行。3日、対ドル・リラ相場は記録的安値となる1ドル=2.53リラを上回った。(3月4日付HD紙10面)

(2)4日、中央銀行は、2月のインフレ率に関し、食品・ノンアルコールグループで微増したが予想より低く、コア・インフレは改善していると発表。エコノミストは、リラが急落しなければ、3月17日に中央銀行が政策金利を25ベーシスポイント引き下げると予測している。(3月5日付HD紙1、10面)

●銀行部門の純利益増加

2日、銀行監視調整機構(BDDK)が発表した1月におけるトルコ銀行部門の純利益は、対前年同期比52%増の21億5000万リラ。資産規模は2014年末からは1.9%増加し2兆320億リラとなった一方、貸付は1.2%増加の12億5500万リラ。対ドル・リラ相場は2014年1月から30%下落。(3月4日付HD紙10面)

●BDDK、イスラム金融部門の設立を承認

官報によると、銀行監視調整機構(BDDK)は、トルコ3番目の規模の国営銀行であるVakıfBankのイスラム金融部門の設立を承認した。同銀行は今後、3億ドルの資本を必要とする。(3月4日付HD紙10面)

●Tüpraşの第4四半期の純利益87%増

コチ・ホールディング傘下の石油精製会社Tüpraşの昨年第4四半期の純利益は、対前年同期比87%増の2億1300万リラ。年間利益は22%増の14億6000万リラである一方、売上高は3%減の397億リラ。一方、コチ・ホールディングの昨年の純収入は、ほぼ横ばいの27億100万リラ。売上高は、3.7%増の688億2000万リラ。輸出の減速やリラ安等が経済への信頼、活発な経済活動のペースにネガティブに作用したとしている。(3月4日付HD紙10面)

●フォーブス富豪番付にトルコから32人ランクイン

2日に発表されたフォーブスの2015年億万長者リストにトルコから32名がランクイン。トルコで最も上位にランクされたのは、ユルドゥズ・ホールディングのムラト・ウルケル会長で、資産総額は44億ドル(368位)。次いで、フィバ・ホールディングのヒュヌ・オズ・イェン会長(資産総額27億ドル)。ランクインされた32人中、女性は8名。トップは、ビル・ゲイツの792億ドル。(3月4日付HD紙11面)

●トルコ4Gの入札に通信業者の新規参入を期待

4日、エルヴァン運輸通信大臣は、本年5月までに第4世代4Gモバイルデータサービスの入札を完了させ、本年末にはサービスを開始できるようにすると発表。既存のTurkcell、Vodafone、Avea以外の第4のオペレータの入札も可能としている。政府は全企業のために公平な条件で入札を行うしており、既存の3社も競争を歓迎している。(3月5日付HD紙10面)

●アンタルヤへのロシア観光客が急減

地中海観光ホテル業協会(AKTÖB)によると、本年1~2月期におけるアンタルヤへのロシア人観光客数が、対前年同期比で41%減少。ロシア経済の悪化が要因と分析。アンタルヤへの観光客数は2.9%減少。アンタルヤへの観光客数が増加している国は、イタリア、フィンランド、スイス、ベルギー、イラン。減少している国は、フランス、デンマーク、イスラエル、ウクライナ、オーストリア、ロシア、イギリス。(3月5日付HD紙11面)

治安

【PKK関係】

●オジャランPKK首領、武装解除のメッセージ発信

反政府勢力クルド労働者党(PKK)の指導者で、現在は収監中のアブドゥラ・オジャランは2月28日に声明を出し、クルド人の人権擁護とこれに伴う憲法改正、国家治安法案の修正等、10項目(「政治」参考)を掲げたうえで、武装解除という「歴史的決断」を下すように支持者に呼び掛けた。声明は今年春の数カ月間に武装解除に関する臨時大会を召集するよう組織に促している。この声明は、アクドア

ン副首相を筆頭とする政府側と HDP 側の協議終了後、オンドル HDP 議員がドルマバフチェ宮殿で行われた記者会見で読み上げた。武装解除のプロセスなどの詳細については未定。(3月2日付 HD 紙 1 面)

【テロ関係】

●トルコ祖国党 (Vatan Partisi : 前身は労働者党) アサド大統領と会談

トルコ祖国党員 13 人は 2 月 28 日から 3 月 3 日までシリアを訪問し、ドーウ・ペリンチェック党首、元 AKP 副党首アブデュルラティフ・シェネル氏らの訪問団が、アサド大統領と会談した。



(3月3日付 HD 紙 3 面他)

●MIT トラックの情報提供者逮捕

2014 年 1 月 1 日にアダナ県内で発生した MIT のトラックに対する捜索事件で、MIT のトラックはシリアに武器を運んでいると情報を提供したハタイ県のジャンダルマ (軍警察) に所属する H. A. が、ディヤルバクルで身柄を拘束され、アダナ県に移送された。その後、アダナ県第 3 裁判所は「政府の秘密漏洩、防諜活動」容疑で同人に対する逮捕状を發布した。(2月27日付 C 紙 5 面)

●タリバンがトルコの車列を攻撃、2 名死亡 - アフガニスタン

アフガニスタンの首都カブールで 26 日、爆弾での攻撃により、トルコ人兵士 1 人を含む 2 人が死亡、1 人が負傷した。トルコ参謀本部の声明によれば、爆発は北大西洋条約機構 (NATO) のアフガンでの上級文民代表でトルコ大使のイスマイル・アラマズ氏を警護する特別チームを標的とした。一方で、タリバンの犯行声明では、トルコの車列は標的ではなく「標的は米軍の車列だった」とツイッター上で表明した。アフガン当局者もこの攻撃について、アフガン人の通行人も 1 人死亡したと述べた。



(2月27日付 HD 紙 1 面等)

●米国総領事館前で爆弾を爆発させると叫んだ男を拘束

27 日、イスタンブールの米国総領事館前に現れた男が「所持している爆弾を爆発させる。」と叫んだ。男は警察に身柄を拘束されたが、爆弾は所持していなかった。警察によ

ると、男は精神障害者であった模様。



(2月27日付 HD 紙インターネット版)

●ISIL 構成員拘束

アクサライ県所在アダナ・アクサライ間高速道路において、ISIL 構成員マッスン・D (トルコ国籍) がジャンダルマの検問により拘束された。同人は 6 ヶ月以上北イラク・モースルにおいて ISIL 戦闘員として戦闘に参加しており、イスタンブール居住の妻子を迎え、再度北イラクへ向かう途上だった。(2月27日付 C 紙 10 面)

●トルコで不明英少女の画像

行方不明になっている英国人の 10 代の少女 3 人が、イスタンブールのバイラムパシャのバスターミナルで、シャンルウルフア行きバスに乗り込む前の様子を捉えた画像が見つかった。捜査当局は、少女 3 人が過激派組織 ISIL に参加するために英国から出国したとみている。(3月2日付 HD 紙 9 面)

●レイハナルで爆弾パニック

3 月 1 日、ハタイ県レイハナルで駐車中の車両の近くに不審な包み 2 個が置かれているのが発見された。警察の爆発物処理班が、包みの中に爆発物が仕掛けられているのを発見し、爆破処理した。車両の所有者は、シリア反体制派組織自由シリア軍 (FSA) 司令官であった。



(3月2日付 M 紙 18 面)

●参考論調「トルコはジハードへの幹線道路」

トルコが ISIL を脅威と見なすのであれば、ISIL について深い情報を持っていなければならないが、実際にはこれといった情報はない。トルコにとっては大きな弱みだ。クラッパー米国家情報長官は、米上院軍事委員会での発言の中で、トルコは ISIL の脅威に対し、「優先的な位置付けを与えていない」、「トルコが ISIL に関して現状以上に積極的な役割を引き受けるとは考えにくい」、「トルコはもっと別の優先事項や利害を有している」と述べている。また、トルコ政府は「クルド問題を優先」させており、トルコ国内で行った世論調査では「ISIL は根本的な脅威とは見られていない」との結果もあるようだ。従って「トルコでは ISIL に加わろうとしてシリアに向かう者は寛大に扱われる」、「だから、シリアに向かう外国人戦闘員の 60% 余りはトルコ経由だ」とクラッパー氏は断言する。

「聖戦 (ジハード) への幹線道路」と外部から見られているトルコは、逆に言えば、ISIL に対する戦闘において今後

も特別な重要性を有するシトルコに対する国際的な圧力はさらに増すことになろう。(2月28日付R紙、ジェンギズ・チャンダル氏)

●カナダ大使館に不審物件パニック

3月2日、アンカラのカナダ大使館に不審な封筒が郵送され、封筒の中に不審な粉が入っていたことで、警察と国際医療救助隊(UMKE)が現場に急行し、研究所で鑑定中。現在までのところ、大使館員らで体調不良等を訴える者は出ていない。(3月3日付C紙8面)

●サカルヤ県で ISIL に対する捜索、10名拘束

3月1日、トルコ警察はサカルヤ県内で ISIL 構成員である疑いのある者らに対する捜索を実施し、10名の身柄を拘束した。詳細は未発表。なお、2月5日に初めて ISIL トルコ人帰還戦闘員が逮捕されたことを受けて、チュヴシュオール外相は、ISIL に合流しているトルコ人は500から700名としつつ、トルコ人帰還戦闘員(ジハーディスト)がトルコでテロ攻撃を行う潜在的可能性について言及。(3月3日付HD紙9面)

●ISIL メンバー南東部で拘束される

3月2日、ハタイ県ハッサ地区で ISIL メンバーと見られるA.D.(24歳、国籍未公表)がジャンダルマ(軍警察)に身柄を拘束された。拘束時にカラシニコフ1丁、爆薬、多額の現金が押収された。また、トルコ・シリア間のジハーディストの密入国に関与していたとみられるトルコ人、アフメット・ユムシャク容疑者がシリア難民に対する売春斡旋で身柄を拘束されている。(3月4日付HD紙4面)

●ISIL、欧州からの ISIL 参加希望者に対する「ハンドブック」発刊

ISIL は、西欧諸国から ISIL に参加を希望する者に対する「ハンドブック」の2015年版が明らかになった。約50ページから成る同書(英語、インターネット版)では、トルコを経由したシリア入国を目指す上での「注意事項」などが詳細に記載されている。主な内容は以下のとおり。

- ・トルコを経由してのシリア入りは、以前と比べて非常に困難になった。

- ・トルコ入国の際には「旅行者」の印象を与えるために、トルコに直接入国ではなく、ギリシャやスペインを経由すること。往復航空チケットは不可欠。

- ・入管では、①まず、落ち着いて対応する。②入国目的に対しては「観光」と回答。主要な観光地を回答できるように準備すべし。③「シリアに行くのか」との質問に対しては、「No」と嘘をつくこと。尋問の圧力が強まれば、「人道支援のため」と答えても良いが、国境を越えるとは絶対に述べないこと。④アルカーイダに参加するのかと聞かれることがあるが、トルコ当局はアルカーイダと ISIL の区別がついていない。いずれにせよ強く否定すること。

- ・トルコの諜報当局は、決して ISIL の「友人」ではないことを忘れるべからず。

(3月4日付HT紙14面)

【一般】

●アンカラ大学内衝突で警備員1名負傷

26日、アンカラ大学内で学生グループ間の衝突が発生し、警備員がグループを分離しようとした際に銃で足を撃たれて負傷した。この衝突で警察は、学生46人の身柄を拘束し、その後43人が釈放された。3人の学生は、アンカラ警察に留置中。警察が大学の防犯カメラ映像を解析したところ、留置中の学生3人のうちの1人が銃を発射した様子が映っていたとのこと。

2月20日にエーゲ大学でMHP青年部の代表者が、グループ間抗争から刺されて死亡した事件が今回の衝突の原因となった模様。



(2月27日付C紙3面)

●元警察情報局長拘束ーディンク事件

2007年1月、アルメニア人ジャーナリストで「アゴス新聞」代表のフロント・ディンク氏が射殺された事件(ディンク事件)の捜査の一環として、2月26日、元トルコ警察情報局長であるラマザン・アクユレク容疑者が拘束された。アクユレク容疑者は、2006年5月から2009年10月まで情報局長を務めていた。(2月27日付HD紙3面)

●アクドアン副首相：国内治安法案は歴史的改革

アクドアン副首相は、治安に関する警察と知事の権限を増大させる国内治安法案は、トルコで民主主義と法の支配を維持する歴史的な改革であると述べた。

132の条項から成る同法案は、与野党間で激しい対立を生んでいるが、これまでに33条項が合意されている。アクドアン副首相は、「ジャンダルマ(軍警察)の改革は文民統制を維持するためのものであり、警察の改革は歴史的な改革である。公共の秩序と安全保障を強化するための措置をとることは、クーデターと二重構造国家を無くすための大きな一歩である。」と述べた。(2月27日付HD紙インターネット版)

●ICPO 赤手配(国際逮捕手配書)にトルコ人92名

現在トルコ捜査当局はICPOを通じてトルコ人92名に対する赤手配を行っている。容疑者らは、殺人、強盗、詐欺、性犯罪、誘拐、通貨偽造、麻薬等の犯罪で手配を受けている。(3月4日付M紙1面)

社会

●イスタンブール大市の自警団の運動

イスタンブール大市の自警団は、イスタンブールのオトガル(長距離バス発着ターミナル)の管理・経営者に対し罰金・罰則を求める運動を続けている。オトガルの駐車料金は最初の25分間は無料であるにもかかわらず、利用者に8リラを請求しているため。自警団は利用者に聞き込みをして、注意を促している。(3月2日付HT紙23面)

●ここ1年イエディクレ牢獄を見た者なし!

イスタンブールの重要な歴史的建造物のひとつであるイエディクレ牢獄はここ1年間閉鎖中。財務省から30年契約で管理を委託されたスウェース・ターキッシュ・インターナショナル社が、契約条件の「イエディクレ牢獄の収入は環境保全及び改装の目的で使用し、借料、電気代等を支払う」との条件をクリアできないため1年前に裁判沙汰となっている。この間、観光客はイエディクレ牢獄を見ることができず引き返すしかない状況になっている。文化観光省は財務省にイエディクレの管理を譲渡するように要求

しているが、裁判は今も継続中。(3月3日付 HT紙24面)

●地下宮殿が最も人気

観光客に人気のウェブサイトであるトリップアドバイザーのユーザー投票により、トルコで最も人気のある観光地に地下宮殿が選ばれた。他に人気のある観光地として、エフェソス、トプカプ宮殿、アヤソフィア大聖堂、ブルーモスク、アニの遺跡群、セリミエジャーミー等が選ばれた。

(3月4日 HT紙2面)

●エミルガンの林周辺にショッピングセンター等が建設

エミルガンの林周辺の土地約16万平米にショッピングセンター等を建設する計画が進んでいる。土地については、既に12億2千4百万リラで落札された。その土地への建設プロジェクトの入札には、8社が応札しており、来週にも落札者が決定する予定。

(3月4日 H紙15面)

●ターキッシュ・エアラインズ(トルコ航空)の旅客機、ネパールで着陸失敗

ネパールの首都カトマンズ国際空港で、乗客224人を乗せたターキッシュ・エアラインズの旅客機が着陸の際に滑走路を外れ、脇の草地に進入する事故があった。カトマンズ国際空港の広報担当者によると、この旅客機は一度着陸体勢に入ったが、滑走路を通り過ぎたため、再度着陸を試みたという。だが2度目の試みで、着地後に機体が滑走路の外へと滑り出した。乗客は機体から避難。当局によると乗客らにけがはなかったが、乗客の話によると、機体が停止した後、機内に煙が充満したため、乗客らは恐怖で座席から飛び上がったという。

(3月5日 HT紙14面)



(3月4日付 HT紙インターネット版より)

●ミニバスに監視カメラを搭載

ミニバス運転手による女子学生殺害事件の受け、今年度中にミニバスにGPS追跡システム及び監視カメラを設置することが決定された。(3月5日 HT紙23面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事象対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会/トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主主義党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
IDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装置車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公社
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
ISO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
İşİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイード系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MIT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞	英字新聞	通信社
Akşam	A Economist	EC Anadolu News Agency AA
Cumhuriyet	C International New York Times	INYT Agence France Presse AFP
Haberturk	HT Hürriyet Daily News	HDN Cihan News Agency CA
Hürriyet	H Today's Zaman	TZ Doğan News Agency DA
Milliyet	M	Ihlas News Agency IA
Posta	P	Interpress IP
Radikal	R	
Sabah	S	
Taraf	T	
Vatan	V	
Zaman	Z	

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp
 WEB: http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html
 Facebook: http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【イスタンブール県及び近郊県内邦人被害統計】

イスタンブール邦人被害統計					
2014.1.1～2015.3.5 ※総領事館に訴出があったものを集計					
年	窃盗	詐欺	ぼったくりパー(相談)	高額絨毯購入(相談)	
2014年	2件	4件	33件	5件	
2015年	1件	0件	4件	1件	

●窃盗(すり)

2月22日、邦人男性旅行者がメトロ車内で、ズボンの左ポケットに入れていた携帯電話をすられたもの。

●ぼったくりパー

2月27日、邦人男性旅行者が、タクシム広場で国籍不詳の男性に声をかけられ、一緒にクラブに行き、ビール3杯と接客女性にドリンク5杯を注文したところ、3800リラの請求を受けたもの。(後刻男性は店側と交渉し、1400リラのみ返金された。)

★当館HP更新のお知らせ★

- 積極的平和主義1：グローバルな安全保障環境の改善に向けた日本の取組（外務省HP）(2/24) NEW
- 戦後国際社会の国づくり：信頼のおけるパートナーとしての日本（外務省HP）(2/24) NEW
- 女性が輝く社会をつくる1：WAW! 日本から世界へ（外務省HP）(2/24) NEW
- 女性が輝く社会をつくる2：開発途上国とともに（外務省HP）(2/24) NEW